日本大學農獣醫學部校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会

農芸化学科昇格に曙光

大学本部と非公式会談

昨年九月三十日、本部で開かれた農芸科昇格対策委員会の総会に続いて、農獣医学部長の諮問ある回答に対し、さらに本部当局と会談して、その積極的な推進をはかるため、二月十六日、午後五時より、本部会議室において、本部当局首脳と校友会農芸科昇格対策委員会代表と非公式会談が行われ、その結果、当局首脳は、農芸化学科への昇格に対して深い理解を示され、前途の見透しに明光がさし始めた感じである。

会談には、大学本部側、古田理事長、佐々木庶務部長、小野教務部長の四氏、農獣医学部からは、岩田学部長、大森経理部長、石渡事務長の三氏、対策委員会代表として工藤委員長・小関委員・佐々木事務局長の四名が出席した。

始めに工藤委員長から本委員会の出来た経過、農芸科設置学校の現状、学びに三日も早くこれが一学科として昇格できるようにとの校友会・学生会様の希望を説明し、さらに一日も早い実現を願う要望書を学部長に手交した。そのうえで、昇格に関する正式の申し入れについては、農獣医学部から本部に未提出のため、本部当局の先生方にはオブザーバーとして御出席の学問的体系のことからも、また、私立の一流大学として対外的な面目上からも、一日も早く昇格させることをお願いする。

○工藤委員長……農芸化学が農獣医学部として、色々な面から考えて、どうしてもつくる必要があるものなのである。

○大森経理部……費用の点では獣医・水産・林学・畜産科等の必要実験万面の設備が次第に充実しているので、これらのもの全部に敷通すれば、そう莫大なものでは無いかと思う。ただ、私学として、経営面出来た経過、農芸科等の必要なのである。

○石渡事務長……初代麻生学部長時代の農芸科設置学校の状況、その後の社会的の変遷、他大学の農芸化学科の現状等の説明。

以上の他に各出席者からの親々の質疑応答があり、古田理事長から「全農獣医学部の学科を私学としての経営面からみて再検討し、必要があればこれを再提案し、その後に学術研究誠いは対外的な面目上必要な設置をとりあげて検討するようにし、この線に従つて案をまとめ、本部に提出してくれれば直ちに積極的に検討する。」旨の発言があり、岩田学部長がこれに対し「強力にその線に沿つて進む考えであるとの意見を説明した。なお工藤委員長は学部長に対し、「文部省の認可を受けるためには前年八月頃までに資料を提出しなければならぬ由であるから、その旨お含めの上迅速にお願いする」と要望した。

今年度の卒業生を二十五日に社会に送り出すに当つて、現在までの就職の状況をお知らせ致します。他の大学にくらべて決して悪い事ではありませんが、矢張り、社会の状勢が反映して会いよいとは申せませんので、校友各位の積極的引き立てをお願い致します。特に地方在住の校友に就職のあつた場合、学校の手の届かないことが多いので、積極的に手をのばして下さるようお願いします。

本年は父兄各位の御努力教職員の賜と思われる。最後に卒業生各位が学察不出られても、この就職に当つた先生の知恵ファイトをもつて母校の為に校友の一員として御指導ならんことを祈ります。

就職状況

（中間報告）

耕種学科

卒業予定者十二名。三月五日現在の就職状況は、地方公務員二名（福島県庁、熱海市役所）、教員三名（内一名附属高校）、中央官庁二名（農林省、三共製薬）、朝日農業経済学科二名、獣医学科二名、水産学科二名、畜産学科二名、農産学科二名、獣医学科二名、農業経済学科二名、就職状況は卒業生の内二名は三月下旬迄には就職する見込みであり、残り二名も四、五月頃迄には就職する見込みであるとの事であり、学校当局の先生方の並々ならぬ御努力と校友各位の一方ならぬ御援助とこの秋冷ばしい状態は卒業生各位の熱心な勉強と父兄各位の御苦労によることは勿論であるが

各科校友会の動き

蒲喜葉会

帝国学園の卒業生は本年度の分を含め合計一百八十名に達し、広く各方面にわたって活躍している。本年度卒業生の大部分が既に就職先が決り、卒業式と同時に実社会で活躍出来ることは満喜葉会の発展のために非常に嬉はしいことで先輩諸兄のより一層の指導、協力を願ひと共に、勤務先、住所等の変更になった場合は直ちに事務局へ通知して御連絡することを御願いする。

久しぶりに、三浦、杉浦両先生を囲む蒲喜葉会の総会は毎年秋に開かれていたが前回の決定により本年度から春に開くことになり、その際現在の役員（会長副会長、幹事）旧制の卒業生の方々には特に遠い出身の呉先生が本年一月教授に就任され、益々研究に学生諸君の指導に尽心されておられる。

三年前後期から、帝国学園の大御所佐々木潤蔵先生が新教授陣に加り、その明快博識な講義を続けてやられることは、獣医科の教授陣先生に大きな喜びとなっている。

開の側色々な事情のため二十数名の参会で、六会に於ける盛会であった。昭和三十年度卒業生四十五名、これを迎る任期先生の歓迎として、西村、千葉、森本三氏が出席し、先生側から相浦、明石、小島、林田先生が出席して下さった。

席上、千葉理事によって、校友会発足に当って、卒業生各位に、立派なアルバムが一冊づつ贈られ卒業生より、学校に記念品として英文タイプライター一台が贈られ、満場拍手のうちに、壮行会を終った。

林学科校友会々報も出したいのですが、原稿の集りが悪いため、続刊することが出来ません。どうぞ、原稿を御送り下さい。

林学会報も、間もなく第十七号が出ます。専門的な原稿を御寄下さい。特に住所の移動は別紙ハガキで一本御報して戴いて下さい。

私はこれから、卒業生の一部希望者をつれて、伊豆大島を めぐってきます。

耕種同窓会

昭和三十年度も終りに近く、学期末試験も始まり、何年か前の基礎の様に、学園諸君は青春吐息のきの日既です。群馬同窓の諸兄には御気苦労ですが、本会も同窓諸兄の御理解有る御協力により無事会員を迎つて居ります。昨年十一月二日（文化の日）には東京農業学部部が有り、本会も当日第三回総会及び懇親会を開きました。新鶴田講師に校友賞を授与、昨年前期ビールの振得をしたのは嬉然であった。

三月七日（水）懐しい六会の校省で、六会に於ける盛会の模様を聞きました。本年は授賞選別に当り、故郷が行われ、初代会長我妻先生、故郷が行われ、初代会長我妻教授は御都合により辞任され、後任会長には一期の山本秀雄氏が選ばれました。本会の発展のために大いに貢献されたお両教授に感謝を伝ずまして、皆様と共に深甚なる感謝の意を表します。副会長は二期鳥居勇太郎氏、四期渡辺三郎氏

拓友会便り

昨年十二月十九日午後六時より、新宿"すがのなぎ"において、昭和三十年度拓友会忘年会を開催した農獣医学部事務長、石渡伝郎先生の御来賓を得て二十余名が楽しく例の如く工藤会長の酒豪な挨拶に始り、皆様御出のメンバーで、毎月御出の物語りの肉に終始、三年度の穂ん の投負を新にして、和やかに会を終了した

追記

拓友会として、終戦後社会動乱に巻つて閉鎖のむなきに至った拓殖科の将来をされいて居つたが、幾度会員の拓殖科再建の大なる願望に依り、復活の企画がなされて居る。

櫻水会

昨年度も終り昭和三十年度も暮ろうとしてをり、まさに繁忙の時期に当り、故に「櫻水会だより」も当然遅くなってなければならぬ然しながら例年（十一月）に恒載して以来祭り目新しいニュースがないかとこと主なる「三のニュース」を掲げて見ると

曽根原

会長小久保教授、副会長柿島先生、幹事竹田学園長、大森相場会長長期間在職の役員、会員諸兄をつ ぎ始めの役員、会員諸兄をつ ぎ始めの役員、会員諸兄をつ ぎ始めの